

都市マスの見直しの全体的な方向性

- 京都ならではの魅力と都市活力を循環させる考え方は大事
- 豊かな自然・環境，都市農業など，SDGsや京都らしさも大切にして将来像を考えることが必要
- 京都ならではの暮らし方や伝統文化，環境の重要性が，コロナ禍で改めて再確認
- 山，川，寺社など受け継いできた資源をいかした京都らしい都市生活を目指すことが重要
- 経済の活性化が根本的な問題であり，景観や環境を守るためにも経済の活性化が必要
- 創造ゾーンの伸びしろをいかす明確なインセンティブが必要であり，戦略的に都市計画規制の在り方も議論すべき
- 東京や大阪とは異なる「京都」スタイルの働き方，暮らし方を共有し目指すことが重要
- 「コロナ社会」も踏まえ，これからは「健康」をキーワードにした視点も重要

都市マスの拡充において特に検討すべき論点

<新たな時代の「職住共存・職住近接」>

- 活動様式の変革により，自宅の近くで働けるオフィスのニーズを後押しするなど，今の時代の「職住共存・近接」の可能性を考えることが重要
- 工業系のエリアでも産業と住宅が相互に調和した「職住近接」の新たな形態の可能性の検討も必要
- 京都は学生の就職先や新しい産業ニーズにも対応できる受皿づくりが重要
- 高速ICのポテンシャルをいかせていないのはもったいない。経済活性化のために市街化調整区域の高速IC付近へ計画的な産業立地を考えることも必要

<広域的な視点と「都市圏」>

- 「京都都市圏」の視点で，本市の都市マスにも近隣都市との連携の考え方を盛り込むことは有意義
- 市境付近での基盤整備やマンション開発の動向を丁寧に把握することも必要
- 地域の景観は京都市域だけで完結するものではなく，市境での連続性を考えることが大事

<これからの「暮らしと営み」に対応したまちづくり>

- 地域の中に生活空間を補う機能を充実させるなど，京都らしい居住環境をつくることが重要
- 地域中核拠点エリアのような歩ける範囲内で，暮らしと活動を賄えるまちづくりが重要
- 日常生活エリアでの用途ミックスのための制限緩和の検討も必要
- 緑豊かなエリアには，自然を守るだけでなく，産業や居住機能の在り方を考えることも重要
- 学術文化・交流・創造ゾーンを都市計画に落とし込むことが必要。都市計画に限らず，まちづくりの面から支援することも大事

方面別指針の検討

- 各分野の政策ブリッジを強め，方面別指針を検討するのは良い視点であり，充実を期待
- 関連施策の議論の場がつけられるような方面別指針にすることが大事
- 都心部などでは，京町家の活用など，東京のオフィスとは違う形での最先端企業の誘致が重要
- 都心部でも，地域によって特性は異なる。人口の減っている東山区などはどう再生させていくのかも大事
- 人口確保と産業活性化の観点から，特に，西部，南部，東部の課題への的確な対応が必要
- 西部と南部と東部で，住む機能と働く機能をうまく結び付けることが重要
- 西部や南部では交通政策が非常に大事であり，単に量を増やす発想でなく，合理的なネットワークを構築し，方面間の有機的なつながりをつくっていくことが大事
- 東部は働く場が少なく，東部だけで考えるよりも，南部と東部の関係性について工夫することが必要
- 南部では，本来のものづくり機能とともに，住む場所としての環境も考えることも必要
- 東部は，地下鉄東西線沿線が交通至便でポテンシャルが高いにもかかわらず，相対的に地価が低く，価値を高めるため最も検討が必要な方面
- 東部は，大規模団地の多いエリア。新たな居住ニーズを呼び込むには教育環境の整備と連動させることが重要
- 今後の核となるタネ地の活用は，都市計画としてその在り方を戦略的に考えることが大事